

初年度 1989.2~1990.6

「おみこしクラブ」を提唱

— 友愛と相互理解で全員参加のクラブに —



スローガン

「奉仕の心は明日への飛躍」

L 鈴木靖夫

蒲郡マリンLCも全会員の努力で発展しながら5周年を迎えることができ喜ばしく存じます。蒲郡LC内では幾度となく新クラブ設立を検討しながら、実現できなかったのを、蒲郡LCの会長辞任と同時に提唱し、検討を重ね、全会員の賛意をえて、エクステンション設立実行委員会を開催する運びとなりました。ガバナーや友人の強い意見により設立を早め、発起人10名を選任し、新クラブの名称、内規、会員、設立日時、役員、予算等精力的に決定して1989年2月28日に結成式が出来ました。

この設立に最大のお力添えを戴きました今は亡き3Lを思い出します。クラブ設立を促し、蒲郡LC内をリードされた故・酒井一利様。発起人会発足時より良き相談相手となり、力を發揮された故・大町一美様。そしてクラブの規約、考え方、その上金銭の援助まで全般にわたって力添えを戴いた故・萩原幹也ガバナーの死は悲しく胸を締め付けられる思いです。この5周年をお見せし報告したいものです。

思い出のアクトとしては「ちびっ子凧上げ」大会、身障者へのアプローチとして「つづじ寮」、「眺海園」への協力、国際的には「オイスカ」への援助、この国際交流基金の贈呈は市の「国際交流協会」設立を促した一石として時代に適したアクトでありました。

設立当初より和のこころをもち、友愛と相互理解を基本とした、全員参加のクラブになって欲しいと「おみこしクラブ」を提唱して参りました。祭りのおみこしは楽しく莊厳で優美ですが、会員の信頼と協力がないと担ぐことが出来ません。

全会員がその年の会長、幹事をおみこしと見立てて楽しく担ぎ上げてください。私も新しいクラブを作った責任という十字架を背負いながら、会員間の信頼の輪の中で尊厳に満ちた楽しいクラブを夢見て、益々発展し続けて欲しいと願っています。

(L.鈴木 靖夫 記)

役員組織	二年理事	深津	六郎
会長 鈴木 靖夫	〃	鈴木	殖夫
第一副会長 鈴木 敏允	〃	小田	多良
第二副会長 森 桂吾	〃	野田	孝道
第三副会長 山本 好美	〃	福沢	君夫
幹事 計 大町 一美	一年理事	石川	杉夫
ライオンテーマー山本 孝	〃	大浦	武夫
テールツイスター 市川 伊嗣	〃	木村	利男
	〃	鳩田	栄治
	〃	鈴木	義寛
	〃	市川	詔一
副幹事	修身	渡	義詔
副会計 鈴木 鋤柄	渡	貴之	
副ライオンテーマー 大場 貴之	大場	利夫	
副テールツイスター 小畠 貴之	小畠	八郎	
会計監査委員 (正)杉山 修身	(正)杉山	八郎	
	(副)近藤 渡	茂	

地区役員
会員エクステンション委員長 深津 六郎

(◎委員長 ○副委員長)

運営委員会			
(第一副会長 鈴木 敏允)	○鈴木	殖夫	○高須
会員委員会	○井沢 敏雄	○福沢	○平野
計画委員会			○大浦
会則・付則委員会	○石川	杉夫	○大浦
(第二副会長 森 桂吾)	○小田	多良	○野口
財務委員会	○野田	孝道	○鈴木
出席席委員会	○深津 六郎	○近藤	○修身
指導育成委員会	○木村	利男	○中瀬 充二
(第三副会長 山本 好美)			○水野 雄二
P R 委員会			○鈴木東太郎
情報委員会	○鳩田 栄治	○市川 詔一	○市川 久也
大会委員会			

事業委員会			
(第一副会長 鈴木 敏允)	○大浦	武夫	○加藤 寿則
YE-LCIF委員会	○鈴木	義寛	○石川 杉夫
三献推進委員会			
(第二副会長 森 桂吾)	○高須	惣士	○宮下 芳彦
環境保全委員会	○市川 久也	○榎本 尚史	
社会福祉委員会			
(第三副会長 山本 好美)	○杉山 八郎	○鈴木 修身	
市民・教育奉仕委員会	○近藤 茂	○井沢 敏雄	
薬害糖尿病委員会			
特別委員 水藤 勇	○高橋 二郎	○小田 多良	
深津 六郎	○鈴木 殖夫		

初年度 1989.2~90.6 主なアクティビティと行事

1989年

2月28日

5月

- 334-A地区2R・2Z 蒲郡マリンライオンズクラブ結成式
- 蒲郡ちびっ子凧あげ大会 (CN記念事業)



クラブ結成式



ちびっ子凧あげ大会

5月7日

5月

5月

7月

8月

10月

- 334-A地区2R・2Z 蒲郡マリンライオンズクラブ認証状伝達式
- 蒲郡市教育文化振興会へ基金を寄贈 (CN記念事業)
- 蒲郡フィルハーモニー管弦楽団へ基金を寄贈 (CN記念事業)
- アメリカズカップ・ボートドナー会員拠出金
- 「つつい寮」(精神薄弱者厚生施設)へ映写機1台、暗幕1式寄贈
- 「献血・献眼・献腎登録運動」の実施

1990年

1月

- 結成1周年記念 第1回 市民文化講演会
テーマ「繁栄日本の陰に」 講師・上坂冬子先生



献血 111名、献眼・献腎登録 62名



上坂冬子先生の講演

5月

5月

5月

- 蒲郡国際交流協会設立準備金を寄贈 (CN 1周年記念事業)
- 社会福祉法人不二福祉事業会へ備品を寄贈 (CN 1周年記念事業)
- 財団法人口イスカ産業開発協力団

中部日本研修センターへ協力金を寄贈 (CN 1周年記念事業)

第II年度 1990.7~1991.6

大好評だった文化講演会

— 地域にライオンズの存在をアピール —



スローガン

「心さわやか ウィ・サーブ」

L 鈴木 敏允

蒲郡マリンライオンズクラブの2代目会長として、第2回文化講演会の講師を選定することが、任期始めの大きな課題であると認識していました。

その頃、私には珍しく2、3日で読破した本に「鄙(ヒナ)の論理」というのがあります。出雲市長岩国哲人氏と、現在総理大臣になり、夢を実現した形となった細川護熙氏との共著ですが、その本が興味深かったためもあり、ぜひ、岩国市長をお呼びして直接講演をお願いしたい、と思いました。すぐ行動を開始し、努力したのですが、なかなか決まりらず結果、藤原てい氏(新田次郎夫人)に決定いたしました。

しかし、講演会に聴衆が大勢きてくれるのかという心配から、PTAや知人のところをかけずり回ったり、前々日からは、胃の痛む思いも経験しました。

当日は、私の心配も杞憂に終わり、講演会は満席になり、ホッと胸をなでおろしました。勿論、講演の内容も好評で、私の席の回りの女性が涙を流して聴いている様子や、後日には10人程からテープの注文があったことなど、私の記憶の新しいところであります。

こんな経験を通して、蒲郡マリンライオンズクラブの会員の方々にライオニズムの意義を認識していくことや、地域一般の方々へもライオンズの存在価値や影響力を感じて頂き、心の交流をしながら切磋琢磨し、向上出来るようにしていきたい。そして、感動出来るような出会いを沢山持つことの出来る蒲郡マリンライオンズクラブでありたいと思っています。

会員同士が心を交流させながら、切磋琢磨して、We Serveの精神を持ち続けたいと願っています。

(L鈴木 敏允 記)

役員組織		二年理事	鈴木東太郎
会長	鈴木敏允	〃	近藤宏
前会長	鈴木靖夫	〃	鈴木修身
第一副会長	森桂吾	〃	中瀬充二
第二副会長	杉山八郎	〃	平野優
第三副会長	市川詔一	一年理事	六郎殖夫
幹事会	木村利男	〃	小田多良
計画会	鈴木渡	〃	野田孝道
ライオンテマー	小畠利夫	〃	福澤君夫
テールツイスター	大場貴之	〃	
副幹事会	幹事会計	山口正	
副会計	鈴木大岩	大岩敏郎	
副ライオンテマー	大岩政寛	夏目憲行	
副テールツイスター	監査委員	(正)市川直	
会計監査委員	"	(副)嶋田栄治	

リジョン役員

2R三献推進副委員 井澤 敏雄

(◎委員長 ○副委員長)

運営委員会		桂吾)	
(第一副会長 森	桂吾)	○小田 多良	○深津 六郎
会員委員会		○鈴木 修身	○鈴木 俊一
計画委員会			○山本四十三
会則・付則委員会	○河井 勤	○壁谷 武勝	
(第二副会長 杉山			
財務委員会	八郎)	○野口 長務	○平松 栄一
出席委員会		○林 之洋	○市川 貞夫
指導力育成委員会		○榎本 尚史	○近藤 洋光
(第三副会長 市川	詔一)	○中瀬 充二	○水野 雄二
P R 委員会			○岡田 光男
情報委員会	○鈴木 殖夫	○井沢 敏雄	
大会委員会	○野田 孝道	○夏目 光規	

事業委員会

(第一副会長 森		桂吾)	
YE·LCIF委員会	○平野 優	○鈴木 光喜	
三献推進委員会	○福沢 君夫	○大岩 政寛	
(第二副会長 杉山			
八郎)	○近藤 宏	○石田 敬二	
環境保全委員会	○吉見 敏春	○伴 正敏	
社会福祉委員会			
(第三副会長 市川	詔一)	○永田 武満	○近藤 茂
市民・教育奉仕委員会		○鈴木東太郎	○市川 伊嗣
薬害糖尿病委員会	○鈴木高橋 二郎	○小田 駿	
特別委員	水藤 勇	○鈴木 殖夫	多良
	深津 六郎	○鈴木 鈴木	靖夫

第II年度 1990.7~91.6 主なアクティビティと行事

1990年

7月

11月

12月

- 蒲郡まつりで「ふれあい広場」を担当
- 蒲郡市中学生訪華友好使節団への支援
- 「つつじ寮」(精神薄弱者厚生施設)へクリスマス会慰問



「ふれあい広場」で活躍する会員



「つつじ寮」のクリスマス会慰問

1991年

2月

4月

- 「献血・献眼・献腎登録運動」の実施 (蒲郡競艇場にて)
- 大塚中学校の海外交流事業を支援



ホームスティの海外学生



グリーンキャンペーン基金の贈呈

4月

- オイスカ海外研修生激励会
苗木一本
グリーンキャンペーン協賛

5月

- 第2回 市民文化講演会「流れる星は生きている」 講師・藤原てい先生



苦難の歴史を語る藤原てい先生

6月

- 蒲郡ボイイスカウト海外交流を支援

第III年度 1991.7~1992.6

3ライオンが人生という舞台から退場

—歴史に残るできごとが相次いだ激動の1年—



スローガン

「価値ある人生は、奉仕の心から」

L森 桂吾

異常づくめだった夏も終わり、日暮れに聞こえた秋の虫のコンサートも幕を降ろし、落葉樹が装いを変えお色直しをする季節になったが、今年は記録的な冷夏と長雨だったので、大凶作の米に同情して木々もはしゃぐ気になれば、パットしない紅葉の秋になりそうだ。

会長職を辞して約1年半、歳月は不況も政治のトラブルも飲み込み流水の如く過ぎ去り、振り返ってみると平成3、4年は歴史に残る出来ごとが相次いだ年で、激動の世界を映してニュースのシャワーを浴びながら暮らした1年の様に思われる。

国内では佐川事件、PKO協力法が成立し自衛隊をカンボジヤへ派遣、海外では湾岸戦争も終り歴史の歯車は闘争の時代から調和と復興の明日へと歩み始めたのも束の間、ソ連の8人の侍による三日天下の真夏の夜の夢のクーデター、地球の陸地面積の約1/6を占めていたソ連の崩壊四散。

一方クラブでは遙かに優れた人生の有段者で、善意と純粋が服を着ているような故市川久也、故L加藤美喜雄、故L宮下芳彦の3名の方々が人生といふ舞台から退場し、燃える命の灯を消されたことは誠に残念で痛恨のきわみです。

5月の佐藤愛子先生をお招きしての文化講演会は大変な盛況ぶりで、先生の二度の結婚失敗、巨額の借財を残して夫の蒸発、大根一本買うにも考えたといふ逆境の生活経験が心の糧になり、ものを書く場合のエネルギー源になり、まさに「逆境にまさる教師なし」を地で行った素晴らしい講演でした。当日蒲郡駅へお迎えにいった3名の会員が見失って、先生だけが先に到着というハプニングがあり、原因は知性の輝き、情操の香りをそなえた美人作家、これでは見過ごすのが当たり前です。インスタントでなく、エバー美人とは彼女の様な人をいうのでしょうか。

色々な笑いとペース、数々のエピソードがあり、私にとって尊い軌跡となった1年でした。

(L森 桂吾 記)

役員組織	二年理事	小畠	利夫
会長	桂吾	鉢柄	渡尚史
前会長	森敏尤	榎本	勤
第一副会長	市川直	河井	俊一
第二副会長	永田武満	鈴木	宏
第三副会長	山本孝	鈴木東太郎	修身
幹事会	伊嗣	近藤	充二
計	榮治	鈴木	優
ライオンテーマ	大岩政寛	中瀬	
テーラツイスター	加藤寿則	平野	
副幹事会	幹	山本四十三	
副会計	計	滝沢	巖
副ライオンテーマ		小田	二郎
副テーラツイスター		石田	敬二
会計監査委員	(正)木村	利男	
	(副)大岩	敏郎	

リジョン・ゾーン役員	2 R 2 Z · Z C	深津	六郎
	2 R 2 Z · Z C A	野口	長務
	2 R 三献推進委員	井澤	敏雄

運営委員会	(◎委員長 ○副委員長)
(第一副会長 市川直)	
会員委員会	○鈴木敏尤 ○高橋二郎
計画委員会	○鈴木俊一 ○尾崎昌利
	○竹尾喜一郎
会則・付則委員会	○河井勤 ○伴正敏
(第二副会長 永田武満)	
財務委員会	○大岩敏郎 ○市川英喜
出席委員会	○吉見敏春 ○市川貞夫
指導力育成委員会	○鈴木靖夫 ○林之洋
(第三副会長 山本孝)	
P R 委員会	○榎本尚史 ○大原義政
情報委員会	○鈴木殖夫 ○岡田光男
大会委員会	○大浦武夫 ○小田幸重
	○石川杉夫

事業委員会	(第一副会長 市川直)	○平野優 ○稲葉紀勝
YE·LCI F委員会	○夏目憲行 ○金森尚弘	
三献推進委員会		
(第二副会長 永田武満)		
環境保全委員会	○夏目光規 ○山口正	
社会福祉委員会	○長田東一	
(第三副会長 山本孝)		
市民・教育奉仕委員会	○大原義政 ○本多初雄	
薬害糖尿病委員会	○鳥居憲臣 ○吉見準司	
特別委員	○水藤勇 ○高橋二郎	
	○深津六郎 ○鈴木殖夫	
	○鈴木敏尤 ○鈴木小田多良	
	○鈴木高橋二郎 ○鈴木靖夫	

第III年度 1991.7~92.6 主なアクティビティと行事

1991年

7月

- 蒲郡まつりで「献血・献眼・献腎登録運動」キャンペーンの実施



市民会館にて 献眼・献腎登録運動

9月

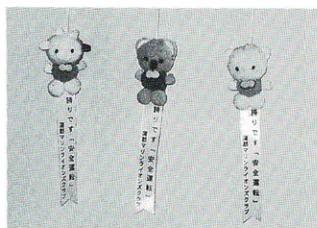
9月

10月

11月

11月

- 秋の交通安全優良運転者165名に“ゴミパック”をおくる。
- 蒲郡市中学生訪華友好使節団を支援
- ライオンズクラブについて市民アンケートの実施
- 蒲郡健康まつりで「献血・献眼・献腎登録運動」の実施
- 交通安全キャンペーンの実施



交通安全マスコット



ちらしとマスコットを配布

12月

- 雲仙普賢岳噴火災害援助
「羽根ベスト」80着を寄贈

1992年

3月

- 愛知県警へドライバークリニック車の寄贈に協力

4月

- ストップ・ザ・交通事故ステッカーを配布

5月

- 第3回 市民文化講演会
講師 佐藤愛子 先生
テーマ 「こんな生き方もある」



「苦しさに立ち向かって…」と語る佐藤愛子先生

第IV年度 1992.7~1993.6

地区年次大会で3つの受賞

— 飯田赤石LCと姉妹提携して交流を誓いあう —



スローガン

「愛の心で地域へ奉仕」

L市川 直

「愛の心で地域へ奉仕」をスローガンにスタートいたしました。

前年度に行ったアンケートの結果、市民のライオンズへの理解がもう一つというので「マリンレポート」を発行することに致しました。B4版のミニ広報紙で発行部数5000部、回数は年間4回に決めました。ところが、号外等も含めて、6回発行致しました。P.R委員会の活躍に頭が下がります。

社会福祉委員会は「チャリティーバザー」と「つじ寮生との交流会」を行い、会員はボランティアの市民の協力と善意により2000点もの品物が集まりました。その売上げは交流会の席上、つじ寮の寮長に贈呈いたしました。

市民教育奉仕委員会は文化講演会の講師を平岩弓枝先生と決め、市民会館中ホールで行われた講演会には、会場に入り切れないほどでモニターテレビでの聴衆もありました。

また、飯田赤石ライオンズクラブとの姉妹提携を行うことができました。中央アルプスに囲まれた飯田赤石クラブと海に面した我がクラブとが交流を深めて、末ながら仲よくできるように誓いました。

334-A地区の年次大会が名古屋で行われ、当クラブは3つの表彰を受けることが出来ました。

1) 会員増強賞銀賞 年度の新入会員が10名、期末会員数は106名となった。

2) 社会福祉貢献賞 初めてのバザーで汗を流してチャリティ資金を「かせいだ」点が認められた。

3) 環境保全アクトビティ貢献賞 「みんなで作ろう美しい蒲郡と青い三河湾」をキャッチフレーズとして竹島海岸のクリーン作業を行い、みんなで汗を流した。海洋少年団、ボーイスカウト、ガールスカウト、蒲郡ヨット協会の協力があった。

年度総アクトビティ資金は
約5,700,000円でした。 (L市川 直 記)

役員組織	二年理事	小田 幸重
会長 市川 直	"	大原 義政
前会長 森 桂吾	"	竹尾 喜一郎
第一副会长 市川 伊嗣	"	夏目 光規
第二副会长 小畠 利夫	"	夏目 憲行
第三副会长 大場 貴之	"	河井 勤
幹事会 計 政寛	"	鈴木 俊一
大岩 栄治	"	永田 武満
嶋田 鳴田 正	"	本多 初雄
山口 正	"	
ライオンテーマ テーナー		
山本 四十三		
会員理事 鈴木 靖夫		
副幹事会 計		
副ライオンテーマ		
副テーナー		
会計監査委員	(正)近藤 宏	敏郎
	(副)滝沢 巍	雅敏
		光喜
		利夫
		宏巖

リジョン役員

2R環境保全公衆安全委員 榎本 尚史

(○委員長 ○副委員長)

運営委員会

(第一副会长 市川 伊嗣)	○鈴木 靖夫	○鈴木 孟良
会員委員会 ○大原 義政	○鈴木 孟良	○鈴木 良朗
P.R委員会 ○野田 孝道	○小田 多良	
指導力育成委員会 ○近藤 武満	○中瀬 充二	
(第二副会长 小畠 利夫)	○永田 武満	○野口 長務
情報委員会 ○高橋 洋一	○近藤 洋一	○長田 東一
財務委員会 ○高橋 二郎	○高橋 二郎	
出席席委員会 ○(第三副会长 大場 貴之)	○(第三副会长 大場 貴之)	
計画委員会 ○竹尾 喜一郎	○市川 貞夫	
○尾崎 保久	○尾崎 保久	
姉妹提携委員会 ○鈴木 靖夫		
大会委員会 ○夏目 光規	○鈴木 修身	
会則・付則委員会 ○木村 利男	○福沢 君夫	

事業委員会

(第一副会长 市川 伊嗣)	○小田 幸重	○岡田 光男
三献推進委員会 ○本多 初男	○木村 利己	○鈴木 正己
市民・教育奉仕委員会 ○吉見 敏春	○伴 捷文	
(第二副会长 小畠 利夫)	○鈴木 俊一	○加藤 寿則
環境保全委員会 ○高橋 二郎	○牧野 孝彦	
社会福祉委員会 ○河井 勤	○林 洋之	
(第三副会长 大場 貴之)	○高橋 二郎	○小田 多良
Y.E.L.C.I.F委員会 ○鈴木 勇	○鈴木 靖夫	○桂吾 靖夫
薬害糖尿病委員会 ○水藤 深津	○鈴木 殖夫	
特別委員 ○鈴木 敏允	○鈴木 錦	
水藤 深津	○鈴木 錦	
六郎 森	○鈴木 錦	
鈴木 敏允	○鈴木 錦	

第IV年度 1992.7~93.6 主なアクティビティと行事

1992年

9月

- 蒲郡市中学生訪華友好使節団を支援
- キャンペーン「みんなでつくろう！美しい蒲郡と青い三河湾」
 - その1 危険物安全協会と協賛 「油のたれ流し」防止を呼びかける
 - その2 海と海岸の清掃（蒲郡少年3団体、蒲郡ヨット協会の協力を得て）



蒲郡少年3団体と海岸の清掃



会員のモーターポートで海のごみ拾い

12月

- チャリティ・バザーとつづじ寮生との交流会



大盛況のチャリティ・バザー



手話サークルの青年たちも応援に

1993年

1月

- 台北市光明国際獅子会一行33名の来蒲歓迎行事を支援

- 交通安全キャンペーンの実施

- 第5回 市民文化講演会 「史実と小説」講師 平岩弓枝先生

- 飯田赤石LCとの姉妹提携調印式

記念アクティビティとして飯田、蒲郡両オイスカ支局へ活動基金を贈呈



陰の人を描きたいと語る平岩弓枝先生



オイスカ支局へ活動基金を贈呈

6月
92.5~93.5

- アメリカアトランタ州中高校生の来蒲交歓活動を支援
- 外的PR用ミニ広報紙「マリンレポート」No.1~No.5 発行